

令和7(2025)年人口動態統計月報年計(概数)の公表 に係る知事コメント

本日、厚生労働省が、令和7年の人口動態統計を公表しました。

この中で、本県の合計特殊出生率は前年と同様に1.00で、全国順位は45位となり、前年より1位上昇（北海道と同位）しました。

全国の合計特殊出生率が0.01ポイント下落（1.15→1.14）する中、本県の合計特殊出生率は、10年ぶりに前年水準を維持しました。

県では、これまで、結婚支援センター「みやマリ！」の運営のほか、男性育休取得奨励金の創設や、デジタル身分証アプリを活用した子育て支援パスポートの導入、一歳未満の子どもがいる世帯への「みやぎポイント」の付与など、結婚・妊娠・出産・子育てのそれぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援に注力してまいりました。こうした継続した取組の成果が徐々に現れてきたものと認識しています。

一方で、出生数は前年と比べ163人の減（11,242人→11,079人）となっており、減少率は鈍化したものの（8.8%減→1.4%減）、依然として少子化と人口減少が進んでいることに強い危機感を持っています。

今年度も、取組の継続・一層の拡充を図るとともに、「若者・女性に選ばれる宮城」を目指した新たな視点からの施策など、部局横断で総合的な取組を進めているところであり、今後とも「次世代育成・応援基金」などの独自財源も最大限に活用しながら、県庁一丸となって少子化対策を強力に推進してまいります。